



Press Release

公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目 4-24
TEL 06-6375-3202 FAX 06-6375-3229

2018年度
第8回

いのちのセミナー

～ひとのいのち 私のいのち を考える～

開催のお知らせ

- 1 日 時 2019年3月17日(日) 13:30～14:40 ※13:00 開場
2 会 場 松下IMPホール (JR・京阪 京橋駅より徒歩10分)
3 講 師 **浜村 淳 氏** パーソナリティ、映画評論家

〈演題〉

「幸せさがして～あなたらしい「いのち」を考える～」

〔浜村 淳 (はまむら じゅん) 氏 プロフィール〕

1935年京都市生まれ。同志社大学文学部卒業後、本格的にタレント活動始める。
1974年からMBSラジオ『ありがとう浜村淳です』のパーソナリティを担当。
タレントとしては初めて、国立大学(和歌山大学経済学部)の講師となったことで
話題になった。
その後1994年に追手門学院大学文学部講師として再び教壇に立った。
著書に『話上手で心をつかめ』『さてみなさん聞いてください浜村淳ラジオ話芸』
『源氏物語 花はむらさき』『京都人も知らない京都のいい話』など



- 4 主 催 等 主催/公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団
協力/西日本旅客鉄道株式会社
- 5 定 員 800名(参加無料)
※事前のご応募が必要です。応募者多数の場合は抽選とし、当選者の発表は参加証の発送(2月24日頃予定)をもって代えさせていただきます。
※当日は、参加証をお持ちの方のみ入場していただけます。
- 6 応募方法 ・当財団ホームページ (<https://www.jrw-relief-f.or.jp/>) からご応募ください。
・ハガキでもご応募いただけます。「第8回いのちのセミナー参加希望」と明記のうえ、参加される方の氏名(フリガナ)・郵便番号・住所・電話番号を記載し、下記の宛先へお送りください。
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4番24号 JR西日本あんしん社会財団
・1名様1回(ハガキは1枚)限りのご応募とさせていただきます。また、1回に2名様以上のご応募はお受けできませんので、あらかじめご了承ください。
- 7 応募締切 2019年2月18日(月) ※ハガキの場合は必着
- 8 その他 報道関係者用の座席をご用意いたします。取材をご希望の場合は、3月4日(月)17:00までに当財団までご連絡いただきますようお願いいたします。(TEL:06-6375-3202)
なお、インタビューなど、講演とは別の時間を必要とする場合は、講演者側と調整のうえ回答させていただきます。
セミナーの概要は、ホームページ (<https://jrw-relief-f.or.jp/>) でもご覧いただけます。

2018年度いのちのセミナー 講師の方々

<p>第1回 2018年5月20日(日) 大林 宣彦 映画作家</p> <p>「あなたのいのちと私のいのちを考えると～あなたと私は人であるから～」</p>		<p>1938年広島県尾道市生まれ。3歳の時に自宅の納戸で出合った活動写真機で、個人映画の製作を始める。16mmフィルムによる自主製作映画『EMOTION=伝説の午後・いつか見たドラキュラ』が、画廊・ホール・大学を中心に上映され、高い評価を得る。1977年『HOUSE/ハウス』で商業映画に進出。同年、ブルーリボン新人賞を受賞。故郷で撮影された『転校生』『時をかける少女』『さびしんぼう』は“尾道三部作”と称され親しまれている。長年にわたり精力的に作品を製作し数多くの賞を受賞。最新作『花筐/HANAGATAMI』が2017年12月に公開。2004年春の紫綬褒章受章、2009年秋の旭日小綬章受章。</p>
<p>第2回 2018年8月9日(木) 関谷 直人 同志社大学神学部教授 牧師</p> <p>「いのち輝かせるために今死と向き合おう～キリスト教から見た「いのち」「死」～」</p>		<p>1960年大阪府生まれ。1982年大阪芸術大学音楽学部音楽工学専攻卒業。1988年3月同志社大学大学院神学研究科博士課程(前期)修了。1990年日本キリスト教団霊南坂教会牧師。1992年米国パイン合同メソジスト教会日本語部牧師。1996年同志社大学神学部勤務(研究助手)2006年同志社大学神学部教授。著書に『牧会の羅針盤—メンタルヘルスの視点から』、『ドメスティック・バイオレンス そのとき教会は』など。『信徒の友』において「ヒット曲の神学」を連載。季刊誌『ミニストリー』において「教会指南」を連載。</p>
<p>第3回 2018年8月22日(水) 山崎 直子 宇宙飛行士 立命館大学客員教授</p> <p>「宇宙、ひと、いのちをつなぐ」</p>		<p>東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻修士課程修了後、宇宙開発事業団(現・宇宙航空研究開発機構 JAXA)に入社。国際宇宙ステーションの開発事業にエンジニアとして従事しながら、宇宙飛行士を目指す。2010年4月にスペースシャトル・ディスカバリー号に搭乗し、宇宙へ初飛行、国際宇宙ステーションの組み立てを任務とするミッションに参加。2011年に JAXA を退職。現在は、内閣府宇宙政策委員会委員、立命館大学等の客員教授、各地科学館の名誉館長などを務めている。著書に『瑠璃色の星』『夢をつなぐ 山崎直子の四〇八八日』など。</p>
<p>第4回 2018年9月21日(金) 垣添 忠生 公益財団法人日本対がん協会会長 国立がんセンター名誉総長</p> <p>「人はがんとどう向き合うか」</p>		<p>1941年大阪市生まれ。1967年東京大学医学部卒業。都立豊島病院勤務などを経て、1975年国立がんセンター病院泌尿器科に勤務、1992年病院長、2002年総長に就任。2007年に退職し、その後、同センター名誉総長、公益財団法人日本対がん協会会長に就任。著書に『がんと人間』『妻を看取る日』『悲しみの中にいる、あなたへの処方箋』『巡礼日記-亡き妻と歩いた600キロ』など。</p>
<p>第5回 2018年10月11日(木) 佃 祐世 弁護士、自死遺族</p> <p>「生きたいのに生きられなかった命～自死遺族の立場から語る～」</p>		<p>山口県生まれ。1998年に当時司法修習生の夫と結婚。その後、夫は裁判官となり、4人の子宝にも恵まれる。2007年に突然夫を自死で亡くす。夫の遺志を継ぐために司法試験に挑戦し、40歳で合格。2013年から弁護士として活躍している。2016年「はつかいち法律事務所」を設立。自死遺族として、弁護士として、自死遺族支援弁護団のメンバーとして、自死予防や自死遺族支援活動にも精力的に取り組んでいる。著書に『約束の向こうに』。</p>
<p>第6回 2018年11月2日(金) 小笠原 望 大野内科院長</p> <p>「ひとのいのちも自然の中のもの～四万十川のほとりの診療所の物語～」</p>		<p>1951年高知県生まれ。1976年弘前大学医学部卒。1977年高松赤十字病院内科勤務、1997年大野内科(高知県田中村市、現四万十市)副院長となり、2000年より院長。田舎のかかりつけ医としての訪問診療、神経難病やこころのケアに白髪のゲリラ医者として奮闘中。著書に『いのちを支える』『いのちばんざい』『いのちの仕舞い』など。「診療所の窓辺から」をスタイルアサヒに連載中。</p>
<p>第7回 2018年11月29日(木) 南 直哉 福井県霊泉寺住職 青森県恐山菩提寺院代</p> <p>「魂のゆくえ」</p>		<p>1958年生まれ。早稲田大学第一文学部卒業後、大手百貨店勤務を経て、1984年に曹洞宗で出家得度。同年に曹洞宗大本山永平寺に入山し、約20年の修行生活を送る。2003年に同寺を下山。現在、福井県霊泉寺住職、青森県恐山菩提寺院代。著書に『語る禅僧』『なぜこんなに生きにくいのか』『刺さる言葉「恐山あれこれ日記」抄』『「悟り」は開けない』『禅僧が教える心がラクになる生き方』など。</p>
<p>第8回 2019年3月17日(日) 浜村 淳</p>		<p>(今回参加者募集)</p>